

平成 27 年度フォローアップ結果への対応状況

機関名	名古屋大学				
統括責任者	役職	総長	実施責任者	部署名・役職	理事・副総長
	氏名	松尾 清一		氏名	國枝 秀世

平成 27 年度フォローアップ結果

評点区分：順調に進んでいる

全体を通じた所見

- 研究強化に向けた新たな取組への予算措置が明確で、積極性が見られ、構想全体が順調に進んでいることが確認された。この体制を維持し続けることにより、研究力を大幅に強化し、世界のトップ大学の一つになることを期待したい。

特に優れた点

- 本事業の推進を戦略的に推進する「学術研究・産学官連携推進本部」の設置、「最先端国際研究ユニット」や「若手新分野創成研究ユニット」など、研究力強化と基盤的機能強化を図る枠組みの構築とその実行、「イノベーション戦略室」による研究動向の分析・把握とそれに基づく研究戦略立案などは、全体が一つのシステムとして長期的展望に基づいた研究力強化の持続的推進の原動力となることが期待される。
- 女性教員の積極雇用、国際化へ向けてのジョイント・ディグリープログラムの設置、インセンティブを高めるための財務制度面での改革、新規採用助教のテニユアトラック制度導入など、多様な研究者への具体的取組が進んでいる。

期待する点

- 事業全般が順調に進みつつある中で、国際若手招聘研究ユニットの設置については、やや遅れがあるように見られるため、今後の進展を期待したい。

平成 27 年度フォローアップ結果コメントに対する事業の課題と展望

【課題】国際若手招聘研究ユニットについては、大学の定員を利用して世界の一線の若手研究者（准教授）を国際公募によって、採用することを見込んでいた（本事業では、ユニット運用のための特任助教の件費を支出見込）。しかし、准教授の採用について、定員枠の応募が困難となったために、本ユニットにおける世界の一線の若手研究者（准教授）については、期限付き教員の枠を利用して招聘する計画へと変更を行った。

平成 27 年度に応募を行い、3 件の申請があったが、世界の一線の若手研究者を本学へ定着させるための道筋が、各ユニットともに、不明瞭であったため、平成 28 年度に再公募を行い、現在、申請のあったユニットについて審査を行っている。

【展望】最先端国際研究ユニット及び若手新分野創成研究ユニットについては、本事業の実施期間中、一定数を運用することを目指しており、平成 28 年度には最先端国際研究ユニットは 2 ユニット、若手新分野創成研究ユニットは 1 ユニットの採択した。現在の採択件数は以下の通りである。

	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	継続ユニット数
最先端国際研究ユニット (5 年)	2 ユニット採択	採択ユニットなし	2 ユニット採択	4 ユニット
若手新分野創成研究ユニット (3 年)	4 ユニット採択	2 ユニット採択	1 ユニット採択	7 ユニット

平成 26 年度採択の最先端国際研究ユニットについては、平成 28 年 3 月及び 7 月に国内外から研究者を招へいする国際シンポジウムを開催することで、ユニットの活動を国内外へ周知している。また、平成 28 年度採択の最先端国際研究ユニットについても、国際共同ワークショップを開催する他、名古屋大学における最先端の特筆すべき研究成果を紹介するサイト（NU リサーチ）において、特集を組むことで、国内外へユニットの活動を周知した。これらの活動により、最先端国際研究ユニットについては、世界的研究拠点形成に向けての活動が活発化することが期待される。

若手新分野創成研究ユニットについては、若手研究者に一定の研究環境を提供し、異なる分野の教員が組むことで新分野開拓が期待される。その中でもユニット代表者が学術研究・産学官連携推進本部 URA とともにベンチャー企業を立ち上げ、当初の想定以上の成果が生まれつつある。今後は、ユニットによる異分野開拓や大型研究費獲得等の研究面での飛躍が期待される。

学術研究・産学官連携推進本部については、「一つ屋根の下」における全学的な研究支援体制が整い、学術研究・産学官連携推進本部の 5 つのグループの枠を越えたチームを組み、平成 27 年 11 月より URA 主導による新たな大学の研究力強化施策の検討を開始した。5 つの提案について、国内外調査や研究企画についての試行を行い、平成 27 年 3 月にワークショップを開催して、その活動について広く周知した。これらの取組については、平成 28 年度も継続して実施しており、特定のプロジェクトを獲得する、イノベーション教育を開始する等の成果が現れている。今後は 5 年、10 年後を見据えた視点からの議論を行うことで、学術研究・産学官連携推進本部による研究支援体制の一層の推進が期待される。

また、平成 27 年度には、学術研究・産学官連携推進本部が保有する各種の研究支援ツールの構築や改修を行うことで、研究者の円滑な研究推進環境の構築を行った。

今後は、研究力強化の具体的な取組である最先端国際研究ユニット、国際若手招聘研究ユニット及び若手新分野創成研究ユニットの推進によって、世界拠点形成による研究力強化がなされ、学術研究・産学官連携推進本部 URA 及びイノベーション戦略室による全学の研究支援強化との相乗効果で、世界のトップ大学の一つになるべく、本事業を推進していく。

研究大学強化促進事業推進委員会コメント

○ 展望どおりに進展することを期待する。なお、国際若手招聘研究ユニットに関する課題は、応募枠などの変更のみならず、大きな仕組みそのものの検討・工夫も期待したい。